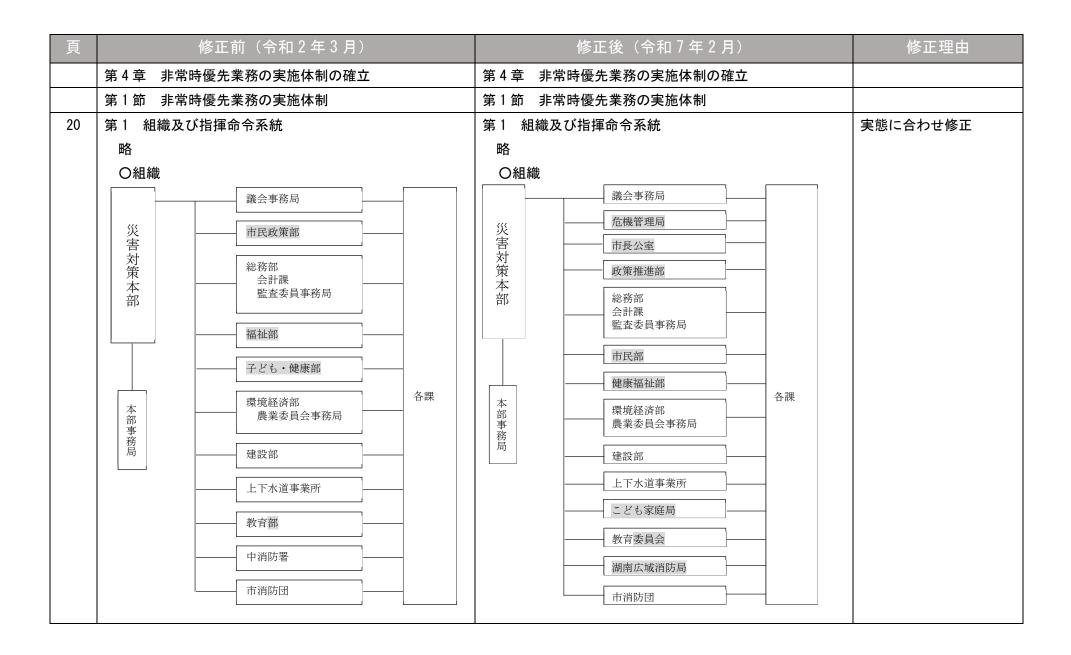
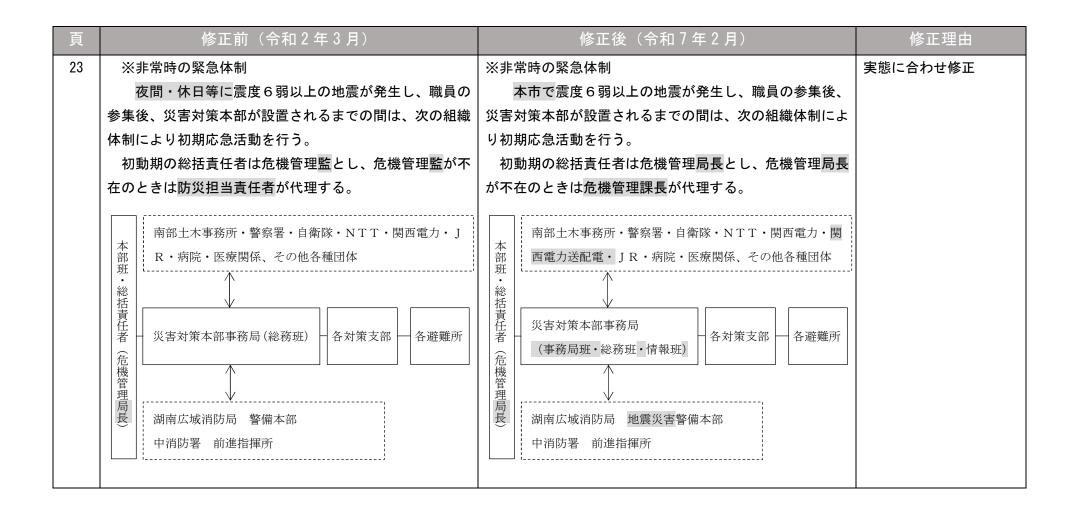
頁	修正前(令和2年3月)	修正後(令和7年2月)	修正理由
	第1章 栗東市業務継続計画について	第1章 栗東市業務継続計画について	
	第1節 計画策定の趣旨	第1節 計画策定の趣旨	
2	第3 計画の効果	第3 計画の効果	記述の適正化
	略	略	
	図 発災後に市が実施する業務の推移	図 発災後に市が実施する業務の推移	
	※ 時間の経過とともに応急業務は縮小していくが、図に記載されている以外の復旧・復興業務が徐々に増加していくことに留意する。 出典:「大規模災害発生時における地方公共団体の業務継続の手引	※ 時間の経過とともに応急業務は縮小していくが、図に記載されている以外の復旧・復興業務が徐々に増加していくことに留意する。 出典:「大規模災害発生時における地方公共団体の業務継続の手引	
	き」(平成 28 年 2 月 内閣府) 第 2 章 計画の前提となる被害想定	き」(令和5年5月 内閣府) 第2章 計画の前提となる被害想定	
	第3節 業務継続への影響	第3節 業務継続への影響	
15	第2 職員の参集	第2職員の参集	実態に合わせ修正
	略 100.0% 90.0% 80.0% 70.0% 60.0% 30.0% 30.0% 30.0% 30.0% 30.0% 20.0% 30.0%	略 100.0% 90.0% 90.0% 70.0% 60.0% 48.6% 55.9% 70.4% 70.4% 1週間以内 2週間以内 1か月以内 図 発生直後の全市職員の参集率	

頁	修正前(令和2年3月)	修正後(令和7年2月)	修正理由
	第3章 非常時優先業務の整理	第3章 非常時優先業務の整理	
	第1節 非常時優先業務の考え方	第1節 非常時優先業務の考え方	
16	第1 非常時優先業務の選定対象	第1 非常時優先業務の選定対象	記述の適正化
	略	略	
	図 非常時優先業務のイメージ	図 非常時優先業務のイメージ	
	出典:「大規模災害発生時における地方公共団体の業務継続の手引き」(平成 28 年 2 月 内閣府)	出典:「大規模災害発生時における地方公共団体の業務継続の手引 き」(令和5年5月 内閣府)	
17	第3 応急業務	第3 応急業務	記述の適正化
	発災時にどの業務をいつから開始すればよいかを明らか	発災時にどの業務をいつから開始すればよいかを明ら	
	にするため、非常時優先業務の候補となる応急業務を「栗	かにするため、非常時優先業務となる応急業務(「栗東市地	
	東市地域防災計画」に示される「災害対策本部体制時の各	域防災計画」に示される「災害対策本部体制時の各班の主	
	班の主な分掌事務」から抽出し、業務ごとの業務開始目標	な分掌事務」に相当)について、業務ごとの業務開始目標	
	時間を設定する。	時間を設定する。	
17	第 5 受援業務	第 5 受援業務	実態に合わせ修正
	本計画の非常時優先業務の検討過程において、外部から	発災時は、応急業務等として膨大な業務が発生し、不足	
	の応援が可能と考えられる業務を「受援業務」として抽出	する人員は受援により補うことが必要となる。本計画で	
	する。	は、非常時優先業務の検討過程において、外部からの応援	
		が可能と考えられる業務を「受援業務」として抽出し、こ	
		れらの業務における応援要請等の体制、手続き等は別途	
		「栗東市災害時受援計画」として定める。	
	第2節 非常時優先業務の選定	第2節 非常時優先業務の選定	
19	第3 受援業務の選定結果	第3 受援業務の選定結果	実態に合わせ修正
	組織ごとに整理した「受援業務リスト」を資料編に示す。	組織ごとに整理した受援業務に番号を振り、非常時優先	
		業務リストに記載する。受援業務の詳細および一覧につい	
		ては、別途定める「栗東市災害時受援計画」に記載する。	



頁		修:	正前(令和	口2年3月)		修〕	正後([·]	令和7年2月)	修正理由
21	〇災害対策本部			〇災智				実態に合わせ修正	
	本部長	副本部長	統括管理	本部員	本部長	副本部長	統括管	理本部員	
	市長	副市長、教育長	危機管理監	総務部長、福祉部長、子ども・健康部長、環境経済部長、建設部長、建設部技監、議会事務局 長、教育部長、中消防署長、消防団長	市長	副市長、教育長	危機管局長	議会事務局長、市長公室長、政 策推進部長、総務部長、市民部 長、健康福祉部長、環境経済部 長、建設部長、建設部技監、上 下水道事業所長、こども家庭局 長、教育部長、中消防署長、消 防団長	
21	O各部	部の構成			〇各部	部の構成			実態に合わせ修正
		部名等	-	所属名		部名等		所属名	
	議会事			議事課	議会事			養事課	
	市民政	策部		危機管理課	危機管:			6機管理課	
				元気創造政策課、秘書広報課	市長公!	室		8書広聴課 	
				財政課				建康運動公園整備事業推進課	
	40.75.45			自治振興課	-1 111	·// +=		≥業立地推進課 	
	総務部			総務課	政策推	進部		報課	
	会計	^課 委員事務局		税務課				女策調整課	
	監査:	安貝争務同		人権政策課、ひだまりの家				也方創生企画課 	
				総合窓口課	かい ふな 中口			情報政策課 	
	福祉部			会計課、監査委員事務局 社会福祉課、障がい福祉課、	総務部 会計課			於	
	(百二十年)			任芸福祉課、厚かい福祉課、保険年金課、長寿福祉課		員事務局		∤ 政課	
	子 ど‡。	• 健康部		健康増進課、子育で応援課、	<u> </u>	ティング		計課	
	, _ 0	IVT IV HIS		子ども発達支援課、幼児課				查委員事務局 查委員事務局	
	環境経			環境政策課、環境センター	市民部			治振興課	
	農業	委員会事務局	5	農林課	11. 2 4 8 1			治務課	
				商工観光労政課				権擁護課	
				農業委員会事務局				トだまりの家	
	建設部			道路・河川課、土木管理課、				合窓口課	
				交通政策課、国・県事業対策	健康福	祉部	社	t会福祉課	
				課、都市計画課			障	がい福祉課	
				住宅課					

頁	修正前(令和	2年3月)	修正後	(令和7年2月)	修正理由
	上下水道事業所	上下水道課		長寿福祉課	
	教育部	教育総務課		保険年金課	
		学校給食共同調理場		健康増進課	
		学校教育課、人権教育課	環境経済部	環境政策課	
		生涯学習課、スポーツ・文化	農業委員会事務局	環境施設整備課(環境センター)	
		振興課、図書館		農林課	
	災害活動部	中消防署		商工観光労政課	
				農業委員会事務局	
			建設部	都市計画課	
				土木交通課	
				道路・河川課	
				住宅課	
			上下水道事業所	上下水道課	
			こども家庭局	幼児課	
				子育て支援課	
				発達支援課	
				こども家庭センター	
			教育委員会	教育総務課(学校給食共同調理場)	
				学校教育課	
				生涯学習課	
				スポーツ・文化振興課	
				国スポ・障スポ推進課	
				図書館	
			湖南広域消防局	中消防署	



頁		修正前	(令和2年3月)		修正後	(令和7年2月	1)	修正理由
23	(班編成)	(班編成)			(災	害対策本部事務原			実態に合わせ修正
	名称	班長	構成課・人員等	職務内容	名和	弥 班長	構成課・人員等	職務内容	
	(新規)				事務局	班 危機管理課 長	危機管理課	○災害対策本部会議室の準備○通信手段の確保	
	災害対策本部 事務局 (総務班)	危機管理課 長	危機 部 長 名 名 名 名 名 名 名 名 名 名 名 名 名 名 名 名 名 名	○災害対策本部会議 室の準備 ○通信手段の確保 ○参集職員の宿泊場 所および食料品の確保 ○各部局の災害対策情報の整理 ○各の整理 ○各の整理 ○各の整理 ○各の整理 ○各の整理 ○各の整理 ○各のでは達の ○自主避難所運営の補助	総務班		各部局から課長 補佐級 1 人を指 名 ※補佐のいない 所属にあっては 係長	○参集職員の宿泊場 所および食料品の確保 ○各部局の災害対策情報の整理 ○各部局への伝達 ○自主避難所運営の補助	
	情報班	あらかじめ 指名	市民政策部、総務 部などからあら かじめ指名(10人 程度)	○電話対応 ○会議の議事録の作成 ○システム入力 ○ホワイトボード等による情報の整理 ○パソコン入力 ○連絡調整(災害対策支部、防災関係機関との情報交換および情報収集)	情報班	あらかじめ 指名	市長公室、政策推 進部、総務部など からあらかじめ 指名(10 人程度)	○電話対応 ○会議の議事録の作成 ○システム入力 ○ホワイトボード等による情報の整理 ○パソコン入力 ○連絡調整(災害対策支部、防災関係機関との情報交換および情報収集)	

頁	修正前(令和	2年3月)	修正後(令和	修正理由	
	第2節 職員の参集及び災害対]策本部	第2節 職員の参集及び災害対		
25	第2 災害対策本部の設置		第2 災害対策本部の設置		実態に合わせ修正
	略		略		
	通知および公表先	通知および公表方法	通知および公表先	通知および公表方法	
	本庁舎内の各班	内線電話・庁内放送・口頭	本庁舎内の各班	内線電話・庁内放送・口頭	
	旧 上 拉7	県防災行政無線・電話連絡・	旧 人 如	県防災行政無線・電話連絡・	
	県本部 	FAX	県本部 	FAX	
	旧 lib 十 十 立日	県防災行政無線・電話連絡・		県防災行政無線・電話連絡・	
	県地方本部 	FAX	県地方本部 	FAX	
	. I. MORLETT	県防災行政無線・電話連絡・	A NORTH III	市防災行政無線・電話連絡・	
	中消防署	FAX	中消防署	FAX	
	防災関係機関(市防災会議委員)	電話連絡・FAX	防災関係機関(市防災会議委員)	電話連絡・FAX	
	報道機関	口頭または文書	報道機関	口頭または文書	
		報道機関・ホームページ・市		報道機関・ホームページ・市	
	住民	登録メール・SNSを通じて	住民	登録メール・SNSを通じて	
		の公表		の公表	
	第5章 必要資源に関する分析	fと対策の検討	第5章 必要資源に関する分析	fと対策の検討	
	第1節 職員		第1節 職員		
26	第2 現状		第2 現状		実態に合わせ修正
	略		略		
	〇地域防災計画及び災害時	職員初動マニュアルによっ	〇地域防災計画及び災害時	職員初動マニュアルによっ	
	て、震度4で警戒1号体制	川、震度 5 弱、5 強で災害警	て、震度4または南海トラ	うフ地震臨時情報が発表され	
	戒本部体制、震度 6 弱以上	で災害対策本部体制と定め	たときで警戒1号体制、震	夏度 5 弱、5 強で災害警戒本	

頁	修正前(令和2年3月)	修正後(令和7年2月)	修正理由
	ている。	部体制、震度6弱以上で災害対策本部体制と定めてい	
		る。	
	〇グループウェアの共通ファイルに、地域防災計画や各	○グループウェアの共通ファイルに、地域防災計画や各	
	種マニュアル(災害時職員初動マニュアル、避難勧告	種マニュアル(災害時職員初動マニュアル、避難情報	
	等の指示・伝達マニュアル、避難所運営マニュアル)	の判断・伝達マニュアル、避難所運営マニュアル)を	
	をおき、周知している。	おき、周知している。	
	略	略	
26	第4 対策	第4 対策	実態に合わせ修正
	略	略	
	○受援計画または受援マニュアルを策定する。	〇策定した災害時受援計画を活用する。	
	第2節 庁舎、執務室	第2節 庁舎、執務室	
28	第3 課題	第3 課題	実態に合わせ修正
	略	略	
	〇本庁舎は耐震化が図られているものの建設後 45 年が	〇本庁舎は耐震化が図られているものの建設後 50 年が	
	経過し、建物の経年劣化が進行している。	経過し、建物の経年劣化が進行している。	
	略	略	
29	第4 対策	第4 対策	実態に合わせ修正
	略	略	
	〇栗東市総合福祉保健センター (なごやかセンター)、栗	〇栗東市総合福祉保健センター(なごやかセンター)、栗	
	東芸術文化会館(さきら)等公共施設の中から、本庁	東芸術文化会館(さきら)、歴史民俗博物館等公共施設	
	舎が使用できない場合の代替庁舎(執務室)を検討し、	の中から、本庁舎が使用できない場合の代替庁舎(執	
	代替施設における執務機能の整備に努める。	務室)を検討し、代替施設における執務機能の整備に	
		努める。	
	略	略	

頁	修正前((令和2年3月)	修正後	(令和7年2月)	修正理由
	第4節 通信		第4節 通信		
32	第2 現状		第2 現状		実態に合わせ修正
	略		略		
	〇災害等に備え、以下	の各種通信手段を確保している。	○災害等に備え、以下	の各種通信手段を確保している。	
	市防災行政無線同報系	1回線(親局1基、子局75基)	市防災行政無線同報系	1回線(親局1基、子局75基)	
	市防災行政無線移動系	1回線(基地局1基、子局43基)	市防災行政無線移動系	1回線(基地局1基、子局43基)	
	災害時優先電話	23 回線(携帯 18 回線、固定 5 回線)	災害時優先電話	33 回線(携帯 28 回線、固定 5 回線)	
34	第5節 情報システム		第5節 情報システム		実態に合わせ修正
	第1 想定される状況		第1 想定される状況		
	略		略 〇サーバや <mark>端末</mark> 等が転倒・破損し、重要データを喪失す		
	〇サーバやパソコン等	が転倒・破損し、重要データを喪			
	失するおそれがある	0	るおそれがある。		
	〇停電や機器の損壊等	により、情報システム機器、庁内	〇停電や機器の損壊等		
	ネットワーク、イン	ターネット等が使えなくなるおそ	ネットワーク、イン		
	れがある。		れがある。		
	〇庁内LANや主要な	情報システムは、業者が保守管理	〇庁内LANや主要な	は情報システム <mark>において故障等の</mark>	
	しているため、故障	等のトラブル対応や補修は業者へ	トラブルが発生した	場合、被害の大きさによっては業	
	の依頼が必要になる	0	者に対応を依頼する必要がある。		
34	第2 現状		第2 現状		実態に合わせ修正
	本市の災害時の情報シ	vステムに関する現状の対策はお	本市の災害時の情報システムに関する現状はおおむね 次のとおりである。		
	おむね次のとおりである	0			
	○重要データは、クラ	ウドサービス等によりデータセン	○主要な情報システム	ムやデータは外部のデータセンタ	
	ターで保管している	ものと庁舎内の設備に保管して	一において管理・運	用し、ネットワーク経由で利用す	
	いるものがある。		るクラウド運用を行	っている。	

頁	修正前(令和2年3月)	修正後(令和7年2月)	修正理由
	〇データのバックアップは各システムが個別のルール	〇ネットワーク基盤を構成する主要な機器及び回線は	
	により行っている。	冗長化構成とし、一部損壊した場合でも全てのシステ	
	O庁舎内設備のデータについては、遠隔地バックアップ	ムが停止しない構成としている。	
	ができているもの、庁内にバックアップしているも	○データセンター内の重要な行政データは遠隔地へバ	
	の、全くとっていないものがある。	ックアップを行っており、データセンターへの疎通が	
	〇クラウドサービス等によりデータセンターで保管で	不可となった場合でもバックアップ先への疎通に切	
	きているデータは、次のとおりである。	り替えることでデータの利用が可能となる。	
	・住民基本台帳システムデータ	〇サーバには転倒防止対策を施している。	
	・地方税システムデータ	〇停電時においてはサーバや端末に対し、自家発電設備	
	・福祉システムデータ(生活保護システム、健康管	による電源供給が可能である。また、サーバ室等に設	
	理システムを除く)	置する主要機器の停電の瞬断対策として UPS (無停電	
	・人事給与システム	装置)を備えている。	
	〇遠隔地バックアップができているデータは、次のとお		
	りである。		
	・行政事務用ファイルサーバに保存している事務		
	データ		
	・財務会計システムデータ		
	Oサーバについては、転倒防止対策を実施している。		
	〇情報システムの管理運用に特化した BCP は策定されて		
	いない。		
34	第3 課題	第3 課題	実態に合わせ修正
	本市の災害時の情報システムに関する課題はおおむね	本市の災害時の情報システムに関する課題はおおむね	
	次のとおりである。	次のとおりである。	
	①情報システム機器等の安全性の確保		

頁	修正前(令和2年3月)	修正後(令和7年2月)	修正理由
	〇サーバ等の転倒によるシステムダウンを予防する		
	必要がある。		
	〇停電に伴うシステムダウンを予防する必要がある。		
	〇ネットワーク回線の断絶や通信機器の障害による		
	通信遮断を予防する必要がある。		
	②機器故障等の早期システム復旧		
	〇大規模災害時にシステム及びデータを保全する環	〇大規模災害時にシステム及びデータを保全する環境	
	境を継続的に維持・強化していく必要がある。	を継続的に維持・強化していく必要がある。	
	○重要システムのバックアップデータの保管場所が	○重要システムのバックアップデータの保管場所が外	
	外部委託先となっているため、復旧までに時間を要	部委託先となっているため、復旧までに時間を要する	
	する可能性がある。	可能性がある。	
	〇災害時におけるコンピュータシステムの保守・復旧	〇情報システムの管理運用に特化した業務継続計画	
	について、情報システムごとに計画を策定しておく	(ICT-BCP) が策定されていない。	
	必要がある。		
34	第 4 対策	第4 対策	実態に合わせ修正
	本市の災害時の情報システムに関する課題への対策は	本市の災害時の情報システムに関する課題への対策は	
	おおむね次のとおりである。	おおむね次のとおりである。	
	①情報システム機器等の安全性の確保		
	〇コンピュータシステム周辺設備(ロッカー、棚など)		
	の転倒防止対策を講じる。		
	〇コンピュータシステムの電源容量を含めた自家発		
	電設備及びUPS(無停電電源装置)の設置を検討		
	する。		
	〇通信回線の冗長化を検討する。		

頁	修正前(令和2年3月)	修正後(令和7年2月)	修正理由
	〇機器の安定稼動環境を確保するため、外部データセ	○システムの安定稼動環境を確保するため、外部データ	
	ンターの利用やクラウド化の一層の推進を検討す	センターの利用やクラウド化 <mark>をより</mark> 一層推進する。	
	る。		
	②機器故障等の早期システム復旧		
	〇災害発生に伴うシステムダウン時の障害対応マニ	〇災害発生に伴うシステムダウン時の障害対応マニュ	
	ュアルの作成を検討する。	アルの作成を検討する。	
	○重要システムのデータに被害が生じた場合を想定	○重要システムのデータに被害が生じた場合を想定し、	
	し、外部委託先とバックアップデータの早期復旧に	外部委託先とバックアップデータの早期復旧に関する	
	関する契約内容の見直しを行い、災害時には優先的	契約内容の見直しを行い、災害時には優先的な復旧を	
	な復旧を要請する。	要請する。	
	〇非常時でも必要な情報システムを稼働できる、ある	○非常時でも業務を継続的に実施できるよう、情報シス	
	いはそのデータを利用できるようにするため、情報	テムの管理運用に特化した業務継続計画を策定する。	
	システムごとの計画を策定する。		
	〇情報システム使用不能時を想定し、紙媒体での業務		
	実施を検討しておく。		
	第6節 食料、飲料水、消耗品、燃料等	第6節 食料、飲料水、消耗品、燃料等	
36	第 2 現状	第 2 現状	実態に合わせ修正
	略	略	
	〇避難者用の食料、飲料水等は、災害時に不足する場合	〇避難者用の食料、飲料水等は、災害時に不足する場合	
	に備え、次の団体と相互応援や協力に関する協定を締	に備え、次の団体と相互応援や協力に関する協定を締	
	結している。	結している。	
	・草津市、守山市、野洲市	・草津市、守山市、野洲市	
	・香芝市	• 香芝市	
	・越前市	・越前市	

頁	修正前(令和2年3月)	修正後(令和7年2月)	修正理由
	• 知立市	• 知立市	
	・栗東市商工会	• 栗東市商工会	
	・株式会社湖光ファイン	・株式会社湖光ファイン	
	・公益社団法人栗東青年会議所	・公益社団法人栗東青年会議所	
	・NPO法人コメリ災害対策センター	・NPO法人コメリ災害対策センター	
		• 株式会社平和堂	
		・生活協同組合コープしが	
		・スギホールディングス株式会社	
	略	略	
	第6章 業務継続計画の継続的な改善	第6章 業務継続計画の継続的な改善	
	第1節 今後の取組	第1節 今後の取組	
40	第3 受援体制の整備	第3 受援体制の整備	実態に合わせ修正
	本計画では、非常時優先業務を遂行するうえで、資源が	本計画では、非常時優先業務を遂行するうえで、人員・	
	不足することが想定される業務や外部機関への応援が可	資源が不足することが想定される業務や外部機関への応	
	能な業務を受援業務として整理した。	援が可能な業務を受援業務として整理した。	
	今後は、外部機関からの支援を効果的に活用するための	他の自治体や各種関係機関等の外部機関への応援要請	
	受援計画を作成するとともに、受援業務の要請先となる外	や救援物資の受け入れを具体化し定めた栗東市災害時受	
	部機関との連携の深化に努める。	援計画(令和7年3月策定)を策定し、非常時優先業務に	
		必要な人的支援について、災害時における外部からの応援	
		受け入れを実施する。	